

〈ケア〉を考える会 (第112回)

■日時：2017年 **5月21日** (日) 13:30~17:30

■会場：京都市山科区安朱中溝町3-2
山科駅より東 徒歩3~4分の民家
(山添)(安朱保育園 東隣)



■当日のたまかな予定
13:00 → 有志集合…会場準備等
13:30~ → 学習会(読書会)
15:30頃~ → 懇親会(笑いヨガなども)
17:00~17:30 → 片付け、終了
(その後で、名残惜しコーヒータイム?)

■内容

(1) 学びの会：読書対話

『中井久夫集 1 働く患者』

(みすず書房 2017年1月刊)

(2) 懇親会……食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

※懇親会参加者で実費(1000円程度)ご負担願います

★参加申し込み、問い合わせ、メーリングリスト登録希望

⇒ 林まで：884michiya@gmail.com 090-5366-1497

★どなたでも参加できます(初参加歓迎)。定員20名程度。

本を読んでなくても(持ってなくても)気兼ねなく参加できます。
(読んできてほしいけど……)。

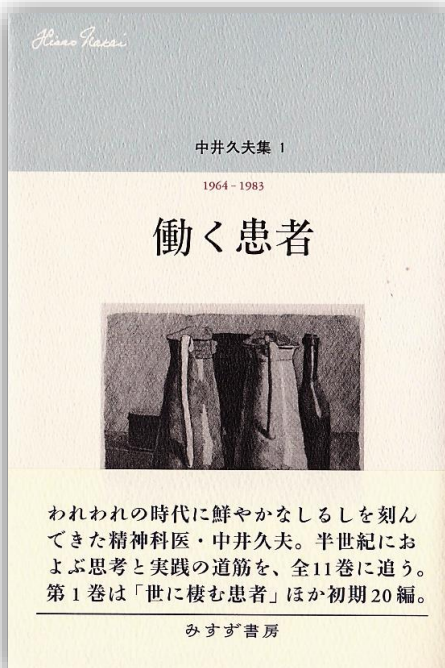


中井久夫 なかい-ひさお

1934- 昭和後期-平成時代の精神医学者、評論家、翻訳家。

昭和9年1月16日生まれ。京大助手、青木病院勤務、名古屋市立大助教授などをへて、昭和55年神戸大教授。平成元年「カヴァフィス全詩集」で読売文学賞(研究・翻訳賞)。8年「家族の深淵」で毎日出版文化賞。9年甲南大教授。16年兵庫庫こころのケアセンター所長。心理療法でつかわれる風景構成法を考案、阪神淡路大震災のときには被災者のメンタルケアに尽力した。25年文化功労者。奈良県出身。京大卒。著作は他に「分裂病と人類」「清陰星雨」「関与と観察」など。(デジタル版 日本人名大辞典+Plus)

『精神看護』5月号(医学書院)に、この本の書評を書いています。
ぼくは中井久夫氏の大ファンです。読むものをうならせてしまう技に、はまってしまいました。(西川勝)



予告
開催日 7月9日(日)
テーマ
「高齢者ケアにおける自己決定を考える」
特別参加 浜渦辰一さん
大阪大学大学院教授(臨床哲学)

わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。

(鷗田清一『老いの空白』P.227)

ひととひととの関係において重要なものは、各人が主体的にどのようにしようとしているかではなくて、いつとはなしにお互いが心を開いてしまっているという事態である。

(池上哲司『傍らにあること』P.169)

おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。

対話には結論はありません。プロセスをゆたかにできなくては。

(長田弘『なつかしい時間』P.191)

「〈ケア〉を考える会」ホームページ
<http://care-kyoto.jimdo.com/>

「〈ケア〉を考える会-岡山」
<http://okayama-care.jimdo.com/>